

2024年5月31日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

市中肺炎/医療・介護関連肺炎の耐性菌出現及び予後に関する後方視研究

研究の概要

【背景】

市中肺炎(community-acquired pneumonia: 以下 CAP)/医療・介護関連肺炎(nursing and healthcare-associated pneumonia: 以下 NHCAP)は2022年度の日本人の死亡原因の第5位であり、ここ数年は減少傾向ではあるが依然として高い死亡数で推移しています。また、感染症全般として耐性菌の出現が問題となっており、感染症の中でも特に頻度の多いCAP/NHCAPにおいては重要な課題となっています。CAP/NHCAPの耐性菌出現頻度を調査した研究は散見されますが、耐性菌別の治癒率などの詳細な報告は存在しません。CAP/NHCAPの初期治療として、耐性菌の出現を考慮した場合は広域抗菌薬を選択しますが、本当に広域抗菌薬に必要があるのか判断が難しい場合もあります。また、広域抗菌薬の不適切使用は耐性菌出現を助長させるおそれがあります。そのため、CAP/NHCAPの耐性菌別の治癒率及びその背景因子を検証したいと考えました。

【目的】

本研究の目的は、CAP/NHCAPにおいて耐性菌毎の出現率とその治癒率を明らかにすることです。また、耐性菌毎の患者背景や治療内容を解析することで、抗菌薬の選択に新たな基準を設定することができ、抗菌薬の適正使用及び耐性菌出現の抑制が期待できます。

【意義】

耐性菌リスク因子をもとに抗菌薬の適正使用及び耐性菌出現の抑制が期待できます。

【方法】

2017年1月1日から2019年12月31日までの期間に長崎大学病院および共同研究機関でCAP/NHCAPと診断された患者さんを対象とし、診療録を用いて後ろ向きに情報を収集します。患者背景、原因微生物、治療内容、予後について解析します。

対象となる患者さん

- ① 2017年1月1日から2019年12月31日までに長崎大学病院および共同研究機関を受診し、CAP/NHCAPで入院した患者さん
- ②年齢18歳以上(性別不問)

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- 患者背景
- 臨床症状
- 身体所見
- 臨床検査
- 微生物検査
- 画像検査
- 耐性菌リスク因子
- 治療経過

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026年12月31日

外部への情報の提供について

本研究に用いる情報は代表機関へ解析のため集められます。

提供先：長崎大学病院

提供方法：症例報告書（EDC データ）

情報の利用開始予定日

本研究は研究機関長の許可日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。
あらかじめご了承ください。

研究実施体制

研究代表者

所属：長崎大学病院 呼吸器内科

氏名：迎 寛

住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1

電話：095 (819) 7200

共同研究機関／研究責任者	長崎みなとメディカルセンター 呼吸器内科／澤井 豊光 長崎原爆病院 呼吸器内科／橋口 浩二 長崎県島原病院 呼吸器内科／古賀 哲 長崎医療センター 呼吸器内科／近藤 晃 佐世保市総合医療センター 呼吸器内科／福田 雄一
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎県島原病院 呼吸器内科 古賀 哲 〒855-0861 長崎県島原市下川尻町7895 電話：0957（63）1145 FAX 0957（63）4864	